

● 大雨に関する注意報・警報

気象庁は、大雨や強風などの気象現象により災害が発生するおそれのあるときに「警報」等を発表し、注意や警戒を呼びかけます。町民の皆さんには、「自らの命は自らが守る」という意識を持ち、避難指示等が発令される前であっても、気象情報等に十分注意し、自らの判断で自発的に避難行動をとってください。

種類	警告内容等	住民のとりべき行動
大雨注意報	大雨による災害が発生するおそれがあるとき。	● 避難行動の確認。
洪水注意報	河川の増水や氾濫、堤防の損傷により災害が発生するおそれがあるとき。	
大雨警報	大雨による重大な災害が発生するおそれがあるとき。 大雨警報（浸水害）、大雨警報（土砂災害）と発表されます。	● 高齢者等は避難。
洪水警報	河川の増水や氾濫、堤防の損傷や決壊により重大な災害が発生するおそれがあるとき。	
記録的短時間大雨情報	数年に一度程度しか発生しないような短時間の大雨を観測、または解析したとき。 現在の大雨がその地域にとって土砂災害や浸水害等の発生につながるような、稀にしか観測しない雨量であるとき。	● 全員避難を。
土砂災害警戒情報	大雨警報（土砂災害）が発表されている状況で、命に危険を及ぼす土砂災害がいつ発生してもおかしくない状況となったとき。	
大雨特別警報	重大な災害が発生するおそれが著しく高まっている場合に、「特別警報」を発表し最大級の警戒を呼びかけます。	● 命を守る最善の行動を。

● 外水氾濫・内水氾濫

洪水には大きく分けて「外水氾濫」と「内水氾濫」があります。

外水氾濫

- 非常に激しい雨が降り続けると、河川の水位が上昇し、堤防から水が溢れ出す。
- 堤防が決壊する等して、河川の水が流れ出し、多大な被害が発生する。

内水氾濫

- 市街地に下水道の排水能力を超える多量の雨が降る。
- 降った雨が下水道等で全て排水出来ずに溜まる。
- 排水先の河川の水位が高くて排水できない。



● 雨の強さと降り方

雨の降り方でだいたいの雨量を知ることができます。危険な状態になる前に自分で判断して避難ができるように、降り方と雨量の関係を知っておきましょう。

やや強い雨 1時間に10～20mmの雨 雨の音がよく聞こえ、地面一面に水溜まりができます。雨が長引く場合には、注意が必要です。	強い雨 1時間に20～30mmの雨 どしゃ降りの雨。傘をさしても濡れてしまうほどの雨です。下水があふれ、またがけ崩れの心配もあります。	激しい雨 1時間に30～50mmの雨 バケツをひっくり返したような雨。がけ崩れもおこりやすく、道路規制も行われます。避難の準備を。	非常に激しい雨 1時間に50～80mmの雨 滝のように降り、あたりが水しぶきで白っぽくなります。水害の発生可能性は大。	猛烈な雨 1時間に80mm以上の雨 息苦しくなるような圧迫感を感じる雨。大規模な災害の発生するおそれが強く、厳重な警戒が必要。
--	--	--	--	--

● 洪水から身を守る

◆ 自分の住んでいる地域を再確認

- 河川からどのくらい離れているか、低地で水がたまりやすいか等を防災ハザードマップで確認しましょう。
- 自宅周辺はどれくらい浸水するのか、指定避難所等までの避難経路は浸水するのか等を確認しましょう。
- 自宅で安全を確保できるのかを確認しましょう。

◆ 雨が降り出したら気象情報と雨量情報に注意

- 大雨警報、記録的短時間大雨情報、特別警報、指定河川洪水予報等の情報に注意しましょう。
- 洪水は、上流で降った雨でも発生するので、上流の雨量にも注意しましょう。

◆ 自らの命は自らで守る

- 避難情報が出たら、自宅にとどまるか、最寄りの指定避難所等に避難しましょう。
- 夜間に降り出した雨等で避難が遅れたら、自宅の2階以上または近くの頑丈な高い建物に避難し、屋内で安全確保をしましょう。



● 浸水継続時間表示図

この図は、小坂川の河道及び洪水調節施設の整備状況を勘案して、想定し得る最大規模の降雨に伴う洪水により小坂川が氾濫した場合の浸水の状況をシミュレーションにより予測した浸水継続時間を水防法の規定に基づき表示した図です。なお、このシミュレーションの実施にあたっては、支川の決壊による氾濫、シミュレーションの前提となる降雨を超える規模の降雨による氾濫、内水による氾濫等を考慮していませんので、この想定される浸水継続時間が実際と異なる場合や、浸水継続時間が明示されていない区域においても浸水が発生する場合があります。指定の前提となる降雨：米代川流域 24 時間総雨量 254mm

